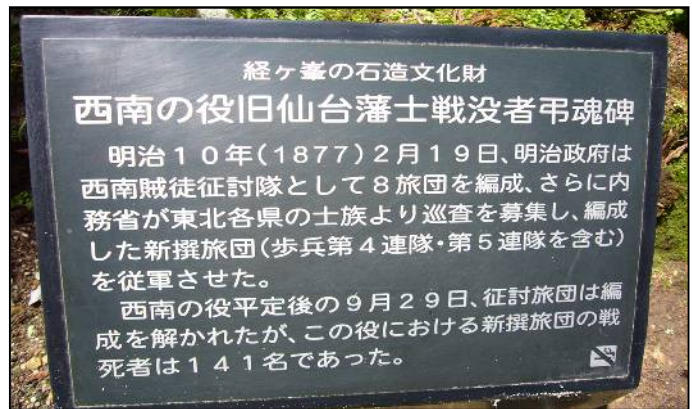


# 西討戦没之碑（西南の役旧仙台藩士戦没者弔魂碑）

本碑は、1877（明治10）年に起きた西南の役で殉職した旧仙台藩の142人の弔魂碑です。西参道を下り切る直前 左手にあります。しかしながら興味を示し 立ち止まり 一望・一読する人は皆無に等しいです。



西討 戦没 之碑



西討戦没之碑

陸軍大將元老院議長二品大勳位熾仁親王題額

維明治十季十一月十四日

天子親臨于東京拾玖社祭西討戰功將士宮城縣舊仙臺藩人列名壇上者一百四十有二矣初明治元年 大政復古仙臺藩以僻在東甌不明志事情談抗 王師 天恩廣大有罪自新闡藩懣悔感激思報效久矣十年二月鹿兒島逆徒大舉東上圍熊本鎮臺勢頗猖獗事聞

天子赫怒遣諸軍討之且募兵於諸縣我舊藩人踴躍競起屬于陸軍警視諸隊屢戰于肥後奮伐子薩摩轉關于大隅日向豐後至九月戡之其間二十有餘旬大小百餘戰經寒涉暑馳騁險阻礮雷彈雨不少沮撓前者已斃後者益奮嗚呼壯矣其兇魁殄滅偉烈發揚雖以

天子威靈諸將士智勇抑我舊藩人亦与有力焉而戰死者之烈尤昭昭矣於是乎 垢洗蕩俯仰無愧可謂快事也哉項者鄉人相謀樹碑于仙臺躡岡刻一百四十二人姓名以吊之且示後世以正權同藩且叅徵募事務屬文誼不可辭乃書其由應之其各人履歷戰聞之詳則別有記述比不及寫銘曰

名義千秋 皎如日月 我猶已消 我薰伊敦 大祭有光 赫奕神壇

泯泯烈烈 焮魄忠魂 豐碑深刻 豈厥為侈 以標後人 永奉

天子

少警視兼太政官少書記官從六位佐和正撰

太政官大書記官從五位巖谷修書 明治十季十一月建

擔當 河田安照 茂貫 利 戸澤精一郎



## 西南の役と旧伊達家家臣

1877(明治10)年2月15日 西郷隆盛は、鹿児島にて挙兵し、熊本鎮台(旧熊本城)を包囲しました。西郷軍最大兵力約4万人。当時の日本の常備兵力32,777人で 鎮圧に出勤可能兵力約25,000人。この兵力の不足を時の政府は、徴兵の外、東北各県の士族を巡查に募集し従軍させました。(軍事力 異説あります 注意)

宮城県から2,822人が応募し、700人が、歩兵第4連隊第1大隊が主力の新撰旅団に編入され出勤しました。募集等には、旧伊達家重臣等が関わっています。

此月西南賊徒暴起シタル由ニ伝聞シテ、世上騒然タリ、同年3月宮城県権令宮城時亮①ヨリ達ニ、其文ニ曰ク、今殿内務郷代理ノ命ヲ奉ジ徴募スル七百名ノ巡查ハ、西南賊徒追討ノ困難ニ因リ招集スルナラバ、其名ハ巡查ト雖モ臨時戦士ニ被用候故ニ、尋常巡查招募ノ規程ヲ履マズ、士族伊達宗亮②・葦名芦州③等類名ヲシテ、戦陣ノ用ニ適スベキ者ヲ撰募セシム。抑困難ニ当タリ命ヲ致スハ士民同一ナリト雖モ特ニ士族ハ職トシ尽スヘキ大義務タルヲ辨ヒ、十八歳ヨリ五十歳迄ノ者ハ、私己の困厄ヲ顧ミズ、方向ヲ定メ奮勵挺身、速カニ徴集所ヘ来リ、名刺ヲ投ジ、検査ヲ受ベシ、(以下略)

以上は、旧伊達家家臣・大槻安広の記録の一節で、戊辰の役で汚名を浴びた 旧伊達家家臣の心情を簡潔明瞭に示していると思います。

各人の履歴は次のとおりです。

①大槻安広とは、家格 番士で250石。政宗公近習役で、殉死した大槻喜右衛門定安の末裔。本人は1836(天保7)年1月23日生。1868(慶応4)年西洋銃隊法を教授。会津追討片倉小十郎 四の手伊達数馬加勢のため出陣命じられ、4月2日瑞鳳山祖廟に墓参。19日土湯峠戦参戦。1869(明治2)年世良事件容疑で逮捕され、無罪にて翌秋仙台に帰着。帰農生活に入るも戸長等を命じられも、応募(41歳)し、西南の役後、第1回宮城県議会議員、郷六他6ヶ村戸長に推された。1898(明治31)年卒 62歳

②宮城時亮(ミヤギトシカ)とは、長州藩士、1874(明治7)年宮城県参事、後 県令に進む。1878(明治11)年辞職。1893(明治26)年5月東京にて卒。

③伊達宗亮(ダテムネカ)とは、旧姓大條氏。家格 一家。亙理・坂元4000石。慶邦公に仕え奉行に進む。維新後復仕えず、文墨自娛。資性温厚寡黙。40歳時 西南の役。1924(大正13)年7月3日卒 87歳。

④葦名芦州(アシナ...)とは、家格 準一家、石越1500石。慶邦公に仕え若年寄等の要職を歴任。会津に出陣。39歳時 三等警部として参加。後 伊達家家扶を務め、1896(明治29)年3月19日伊達家芝邸にて卒。58歳。

## 蛇足 移動

仙台・五軒茶屋観水楼 3月14日13時出発 23日13時30分東京府旧備前邸(飯田橋1丁目?) 臨時巡查屯集所に到着。

同日18時出発、新橋より気車に乗り19時50分横浜着 新橋・横浜間開通1872(明治5)年

同月31日14時乗船出航 4月2日8時神戸湊着船。

同月4日18時30分出航 同月6日11時47分別府湊着船。

政宗公は、7泊8日から8泊9日であった。13代慶邦は、9泊10日から10泊11日を要していた。速度が低下している。本派遣隊も殿様並の速度である。何故か。

本ページは、下記資料により編纂しました。写真はあかとんぼ撮影です。

2008年07月03日

「伊達政宗・戊辰戦争」平重道著 1982年10月発行

「西南征討志」海軍省著 1987年9月復刻

「宮城県史33史料IV」宮城県著 1987年8月復刻

「知らざる西南戦争」山口茂著 2001年3月発行

「西南戦争余話」柴修也著 1989年10月発行

「歴研みやぎ」宮城県歴史研究会 1994年12月発行

「宮城町史・史料篇」宮城県宮城町役場 1989年12月復刻

(財)瑞鳳殿